

「全鍍連」 2024年 7月号 理事長のよこがお

石川県鍍金工業組合 理事長 中島 秀明 (中島メッキ工業(株) 代表取締役)

「1月1日 16時10分」



石川県鍍金工業組合の理事長を仰せつかってます中島です。

県内の観光地見ると長く続いたコロナ苛が明け人の流れが活発化してきた事でインバウンドや国内の観光客が増加し、県内の景気も少しずつ持ち直しに向かっていた最中、千年に一度とも言われる元旦の地震発生により能登地方を中心に一瞬にして、平穏な日々が奪われてしまいました。震度7弱の能登半島地震であります。

この地震による人的被害数は約1,450名で内、死者245名で住宅被害は全壊、半壊、一部破損を含めて約79,000棟と甚大な被害状況となりました。犠牲となられた方々に深く哀悼の意を表するとともに、被災された皆様方に心よりお見舞い申し上げます。

そして全国のメッキ組合様より心温まる義援金を私ども組合にお気遣い頂き、誠にありがとうございました。金沢市から南の方に至るメッキ会社さんは多少被害はあったものの軽傷程度で済みましたが、京都のメッキ会社さんの志賀工場が相当の被害を受けられ大変なご苦労をされました。

義援金はそのメッキ会社さんに全額お渡しいたしました所、皆様方のご厚情に大変感謝されてました。本当にありがとうございました。

元旦当日は昼の12時半過ぎから長女、次女夫婦、孫達と共に年始の挨拶とおせち料理を食べに家族全員集合しました。皆と楽しく祝宴が始まり孫達にお年玉を渡し16時に散会しました。私も調子に乗って飲んでしまいかなりの酔っ払い状態になっていました。その直後、16時10分となり能登半島地震が我が家にも容赦なく襲ってきました。金沢市は震度6弱でした。

自宅はかなりの横揺れで第一波が30秒くらい続きその1分後、第二波が1分間揺れてました。この様な大きな地震は私ども先ず経験がなく阪神、東北、熊本の地震では皆さんも大変な思いをされたのだなとあらためて思い知らされました。しかしながら、その中で我が家の家財道具は思ったほど被害は少なくて不幸中の幸いでした。

私の妻の実家は輪島市内で自宅は半倒壊でもう住まいする事が出来ず、現在は二次避難先として90歳の母親と弟が私どもの自宅近くのアパートに避難生活を送っています。今現在、仮設住宅の順番待ちをしているところですが、あまりにも多数の応募者が居る為に何時入居出来るか皆目分らない状況が続いています。

石川県庁も一生懸命仮設住宅設営の段取りしてる訳ですが、なかなかピッチが上がらず大変苦労をされてます。陸の孤島とよく言われますが能登地方、特に奥能登はまさにその通りで金沢から能登地方に向かう幹線道路は能登里山海道一本しかなくその里山海道を軸に山治い、海治いの町集落に向かう時は細い市町村道が繋がっておりその道を通るかありません。しかしながら、道路には瓦礫や土砂が道を塞いでいる箇所が数多くあり、まだまだ手付かずの所が数多くあります。それが早期復旧の足かせとなっている一つの要因です。

朝市通りの火災の後の瓦礫の山、テレビでの放映を見ると本当に悲しくてやりきれない想いに不安を掻き立てられます。復旧復興には後何年掛かるのかわかりませんが、能登地方の皆様方にはいつまでもお元気いて頂きたいと願いをこめて結びとさせていただきます。